

児童が意欲的に外国語の授業に取り組み、自信を持って コミュニケーションを図ることのできる外国語教育

～教師の有効な働きかけを考える～

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻
勝間田 優

1. はじめに

平成 29 年 3 月告示の小学校学習指導要領（以降、「新学習指導要領」とする）において、中学年に外国語活動、高学年に教科外国語が導入されることになった。外国語活動では、外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成、外国語ではコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目標としている。

来年度から、本格的に新学習指導要領に沿って教育活動が展開されるにあたり、各自治体や各学校は、外国語専科の配置や、ICT 機器の設置などに積極的に取り組んでいる。

2. 小学校の現状と課題

来年度から、小学校 5・6 年に外国語（英語）が教科として導入される。実習校でもある A 小学校では、基本的に学級担任と AET(Assistant English Teacher)が各学級の外国語・外国語活動の授業を展開している。また、国際理解教室という授業も年に数回、行われている。

現在までの外国語活動の授業をどのように改善していけば、教科外国語の授業に児童が意欲的に取り組み、楽しみながら外国語でのコミュニケーションを図るようになるか、小学校では課題になっている。

3. 研究の目的

児童が、意欲的に外国語の授業に取り組み、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができるようにするための教師の働きかけを明らかにする。

4. 先行研究の検討

東京都教育庁指導部指導企画課（2012）によると、外国語の授業において、自信を持って授業に臨むためには、次の 3 要素が大事だと言われている。

- ①安心感のある環境づくり
- ②コミュニケーションの必然性のある活動の工夫
- ③児童の実態に応じた指導

児童の実態に応じ、安心感のある環境を作るとともに、児童にとって、必然性のある活動や必要感を持って授業に臨めるような働きかけが重要であると考えられる。

5. 課題解決の方法

先行研究の検討①については「導入の工夫」「授業内容の工夫」、②については「掲示物の工夫」「簡単な語彙の習得」、③については「目標の明確化」「ワークシートの開発」などが有効な手立てと考えられる。これらを中心に様々な手立てに取り組み、その効果を検証する。

6. 評価の方法

①児童の学習の振り返りカード記述の分析

児童の外国語学習の振り返りシートの中で、外国語活動への取り組みや、外国語でのコミュニケーション活動への意欲を分析する。

②教師への聞き取り調査

外国語・外国語活動の授業を行う学級担任や AET への聞き取り調査を行う。

③客観的データによる児童の変容の分析

授業中の児童の行動や発言を授業実践前後に記録し、行動の変容を分析する。

7. 参考文献

- ・文部科学省（2019）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編」開隆堂出版
- ・東京都教育庁指導部指導企画課（2012）「平成 23 年度 教育研究員研究報告書 小学校 外国語活動」シナジー企画
- ・東京都教育庁指導部指導企画課（2019）「平成 29 年度 教育研究員研究報告書 小学校・外国語活動」康印刷